

防災・減災、固く誓う



1月4日、上ノ国町消防団（長谷川俊郎団長）主催による出初式が、ジョイじよぐらにて挙行されました。昨年、本町は幸いながら大きな災害に見舞われませんでした。全国的には関東で洪水や大停電を引き起こした台風15号や、都市部を水没させるほどの集中豪雨に見舞われた九州北部など、大災害が続いています。昨年就任した長谷川団長は、冒頭の挨拶の中でこれらに触れ、災害は必ず起きるものとして日々の防災・減災に努め、町民の命と財産を守るため団員とともに全力を尽くしたいと語っていました。今年1月25日現在でスキー場がオープンできないなど、例年ない暖冬となっており、今後も異常気象の予測が付きませんので、常に最悪のケースを想定し、災害から命と財産を守る備えを日常から心がけましょう。

上ノ国高校生、複数の作文コンクールで表彰



小山内花穂さん 松塚 結楓さん 中里 好花さん

昨年、上ノ国高校在校生の作文コンクールで入賞し、12月25日の終業式と合わせて表彰式が行われました。まず、3年生の中里好花さんが、P H P 研究所主催の第三回 P H P 作文甲子園にて、「テーマ-私を支えてくれた言葉」の作文で入賞したほか、同じく3年生の松塚結楓さんが税の作文にて江差税務署より優秀賞を受賞、また2年生の小山内花穂さんが、北海道大学主催の懸賞作文にて第1位を獲得しました。最近相次ぐ上ノ国高校生の作文表彰について、担当の五十嵐先生

とお話を伺うと、地域と社会をつなぐ役割を担う者として、倫理観や社会性を養うことが、生徒にとって大切なことだと話していました。

新たな年の始まりを祝う



1月10日、新たな一年の門出を祝う新春の集い（町主催）がジョイじよぐらにて開催され、約180名が新年の門出を祝いました。集いでは、主催者を代表して工藤昇町長が挨拶し、「まちづくりは人づくり」という初心に立ち返り施策を進めていくと、今後の展望と抱負を述べていました。そして、町長の紹介により、地域の農業、漁業、商工業等々で活躍する若者の代表3名が壇上で挨拶を行い、それぞれからの強い抱負が語られ、この後、石澤議長は各々の今年への飛躍を誓うとともに、新たな年の始まりを祝っていました。今年上ノ国昔踊り保存会による舞踊も披露され、一年の始まりに彩りを添えていました。

寒空の下、日本海に拳突き出す



1月12日、寒風が吹きさらば上ノ国地区の浜辺において、空手道スポーツ少年団（納谷敏彦団長）による寒稽古が上ノ国地区の海岸で実施され、所属する小学生から一般団員約20名が寒稽古を行いました。この寒稽古は心身を鍛え、今年一年の無病息災を祈願することを目的に毎年行われているもので、上ノ国八幡宮を全員で参拝し、その後、近くの海岸へ移動して稽古が開始されました。気温零下の寒空の下、団員は道着に裸足で波打ち際に整列し、いざ稽古が始まると、形や組み手などに取り組みました。稽古は約10分行われ、水しぶきと気合の掛け声を上げながら、一年の始まりに、心身の引き締まる稽古となった様子です。